



緑西LETTER

Vol. 5

緑西直言



これからもwe love H.C.M.

緑西会 代表世話人/よしおかクリニック
泌尿器科 吉岡 優(S63卒)

猛暑の8月が過ぎた後には連続して大型台風が訪れ自然の力の強さを痛感する今日この頃会員の皆様は各方面で益々ご活躍と存じます。我々緑西会平成30年総会が6/16いつもの酒蔵通り煉瓦館にて兵庫医大循環器外科の良本講師、県立西宮病院リウマチ科の関口医長の御講演を賜り、盛況に行われましたことをここに御報告致します。

さてこの緑西レターも5回目の発行となりました。ひとえに寄稿頂いた先生方、広告に御協力頂いた先生方、そして編集をしてくれている諸先生方の努力の賜物で、この場をお借りして御礼申し上げます。

最近の話題として日大アメフト部の関学戦での悪質タックルに端を発した大学やボクシング協会・レスリング協会などの組織ガバナンス問題。懐かしい昭和の時代では当たり前であった上下関係、師弟関係での発言、行動が平成が終わりを告げる現代ではどうやら成立しなくなったようです。

我が兵庫医大とは無関係な問題と笑っていただけるのでしょうか？緑樹会会長が理事に入れない兵庫医大理事会はどのようなのでしょうか？一番兵庫医大を愛し心配している卒業生が意見を言えない兵庫医大のガバナンスは大丈夫なのでしょうか？

新家前理事長から太城新理事長になりどのように変化するのでしょうか？我々もじっくり見届けなければならぬと考えております。

ただ我々は決して批判するだけの組織ではありません。良かった時は一緒に喜び、悪かった時は共に検証し色々と意見を出し合い共に反省できる。そんなwe love H.C.M.な組織です。

最近見かけた良かった話題を挙げます。

9/26英国の教育専門誌THEが世界の大学ランキングを発表しました。研究の影響力や国際性、海外の研究者からの評判などで世界の大学を順位付けしたものです。

我が兵庫医大は今までランク外で一度もランクインした事はありませんが、今回初めて801~1000のグループの上位にランクされていました。因みに東大が42位、京大が65位で、日本でランクインされたのは103校です。並居る国公立大学に挟まれた形でランクインしています。(詳細は世界の大学ランキングを検索して下さい。)

母校は頑張っています！我々も地域医療で頑張ってください！

私事になりますが昨年10月医師会健診で自分の診療領域である左腎盂癌が見つかり、母校で6時間の手術を受けました。12階の窓から写る母校はがんばれ！と勇気をくれました。現在3ヶ月毎の検査はありますが元気に過ごさせて頂いております。

会員皆様も是非健康第一で御自身の健診を怠らないで下さい。これからもwe love H.C.M.で頑張りますので御協力頂ければ幸いです。

元号の変化に想う



耳鼻咽喉科 足達医院
足達 治 (H6卒)

本投稿を記載時は台風21号の影響で、関西地方で広範囲な停電が起り、関西空港の連絡橋にタンカーが衝突して、空港機能がマヒしていました。その直後には北海道で大きな地震があったばかりでした。緑西会会員、及び本原稿を読まれている先生方におかれましては、ただただ被害がなかったことをお祈り申し上げます。

私の自己紹介をさせていただきます。兵庫医科大学を平成6年に卒業し、卒業後は母校に残り、耳鼻咽喉科学教室に入局致しました。平成9年に大学院へ進学し、学位取得後は大阪厚生年金病院（現大阪病院）、鷹ノ子病院、兵庫県立柏原病院、兵庫医科大学病院、宝塚市立病院を経て、2013年に西宮市内で開業しました。この秋に開業後満5年を迎えたばかりです。開業場所は夏の甲子園で活躍した報徳学園の傍です。兵庫医大から武庫川沿いを宝塚方面へ北上して仁川を渡る手前、阪神競馬場の近くにあります。最寄り駅は一応、阪急甲東園駅ですが歩きで15分はかかりますので、とても最寄りとは言にくいのが難点です。まだまだ発展途上の診療所ですが、何卒よろしく願い申し上げます。

元号変化に想う 昭和、平成、新元号へ

現在、現役で仕事をされている方は、ほとんどが昭和生まれの方だと思います。若い会員の先生方には、平成生まれの方も出てきている事と思います。


私は昭和生まれで、大学1年生の時に昭和から平成へ元号が変わりました。その当時は、新しい元号にあまりなじめなかった印象がありましたが、学年が上がると平成の年も上がる感じで2~3年もすればだんだんと異和感なく自分の中に入り込んできた感じがあります。大学6年間を平成と共に過ごし卒業し、医師になってこれまで24年間経過しました。気が付くといつの間にか自分自身、昭和より平成で過ごした時間の方が長くなっています。

医師になった当初は明治生まれの患者さんがまだまだ多数おられました。最近では明治生まれの患者さんは、なかなか目にする事がなくなり（106歳以上）、往診先でやっと見かける程度になり、大正生まれ（92歳~106歳）でもかなり高齢で、何とか来院できる感じで過ごされる方と、元気な方の差が激しい感じがします。昭和生まれでも90歳を超える方もおられますので、ずいぶん高齢になってきた感じがします。

昭和は約60年間（1926~1989）であったのが、平成は30年で終わるので、期間としては実質半分でした。自分の人生の約50年間の間で、昭和は20年間、平成は30年間を過ごしてきました。私が生まれる前の昭和の40年間は、史実や、祖父、祖母、父、母などから知るなどした事なのですが、本当に大変な時代だったようです。先人のお蔭で昭和が大発展を成し遂げ、その最中に生まれたので、あまり大変なこともなく（子供なりに大変だったかもしれませんが）過ごしていたのが昭和という元号だったのかと思います。その後、仕事を始めてからの時期が平成だったので、本当にいろいろあったなあ、といった感じがあるのが平成という元号でした。昭和に比べると短くはありますが、20代以降を過ごしてきた平成はその終わりを迎えようとしています。いろいろと自分の糧になった時間を過ごさせてくれて、感謝の気持ちがあります。それ以前のいわゆる人間形成というか、自分のコアの部分には「昭和」がかなり入り込んでいます。やはり「平成」があって、「昭和」との比較ができたおかげかと思います。平成生まれの方々もこれから同じように、「平成はこうだったなあ」と思うのかもしれない。

この世代はこう、といった元号のみでいろいろとステレオパターンの決めつけるのもいかな、と思います。人それぞれ、時代の影響は受けてくるものだと思いますし、どの時代に強く関与されたかで、その人の受けてきたものが現れてくると思います。

時代はかわっていくものだと思います。医療においても、生き方においても時代と共に変わっていくもの、変えていくもの、変わらないもの、変えなくてよいものを見極めて、これからも仕事に、人生に関わりあっていきたいと思っています。

内科・糖尿病内科・内分泌内科

たかはし内科クリニック

高橋 澄夫
 (S55卒・サッカー部)

東鳴尾町2丁目1番23号 グラシオ武庫川1F
TEL:23-0039

安岡クリニック


 安岡高志・眞奈美
 (S58卒・映画研究会)
 眞鍋貴重(H20卒ラグビー部)
 ・蘭(H21卒 硬式テニス部)

石叻町15-1 **TEL:71-3985**

兵庫医大救命救急センターはどのように存在すべきか

～マインドとイノベーション、リノベーション～



兵庫医科大学救急災害医学講座 主任教授
平田 淳一 (H12卒)

このたび、平成30年4月1日に救急災害医学講座の主任教授を拝命致しました平田淳一です。

10年前に別れを告げた8号館1階の救命救急センターは、急性医療総合センター1、2階の救命救急センターに刷新(イノベーション)され、私の意識も、組織作りの難しさに更新(リノベーション)されています。

救急災害医学領域は、重症外傷が激減する一方で、台風や地震による自然災害が増加しているように、その医療需要は、社会情勢にリンクしながら、まるで生き物のごとく変化しています。そのために現在の若手救命医が目指す救命医師像は、私が目指した10年前の重症外傷を扱う救命医師像と比較して、若干毛色が異なっているかもしれません。きっと今後も社会情勢に従い若手救命医が目指す救命医師像が変化していくのが、この救急災害医学領域の側面でもあります。

就任から6ヶ月間が経過し、“兵庫医大救命救急センターはどのように存在すべきか”と、毎日思考をめぐらせております。

スティーブ・ジョブズ氏は、「世界を変えるほどのすぐれた製品を作るためには心の底から愛の結晶のような製品にするために、卓越未満では満足せず、イノベーションを恐れず、誠心誠意努力する気持ちがなければならない」と、復帰したアップル社に価

値観の変化を導入し時価総額1,000億ドル以上の企業に成長させました。

昨今、救命救急センター充実段階評価により、各施設がランキングされます。ついつい、患者数や重症度などの評価に目がくらみ、そのランキング結果が専攻医の人気ランキングに反映されている錯覚を覚えます。

私は、医師である前に人を育てる大学医局にあって、“救命救急センターの原動力は、患者数や重症度ではなく、“陰徳を積む”旗印のもとに集った私ども医局員一人一人の愛の結晶のような後継の救命医を育成することにある”と、考えるに至りました。

つまり、救急災害医学領域の医療需要が社会情勢により変化しても、自分と同じような救命医ではなく、ためらわずに、恐れずにその局面でイノベーションを繰り返し、新たな救命医師像を後継医師に提供する一方で、“陰徳を積む”マインドは変化せず、受け継がれる価値観として守り抜いて行きたい、と考えます。そのことが、兵庫医大救命救急センターが兵庫医大救命救急センターであり続けるための絶対条件であります。

“兵庫医大救命救急センターはどのように存在すべきか”。それは、“陰徳を積む”マインドを守り抜き、変化を恐れずイノベーションを図り、リノベーションを繰り返しながら存在することです。

このように、熱意と愛情に満ちた救命救急センターです。母校のために誠心誠意頑張ります。緑西会の皆様におかれましては、どうか何卒ご厚誼のほどよろしくお願い申し上げます。

いずみ心療クリニック



谷口加容 (H2卒)
駒井早苗 (H1卒)

「女性二人で地味に
診療しています」

相生町6-37 TEL: 75-1601

耳鼻咽喉科
足達医院

耳鼻咽喉科 / アレルギー科

報徳学園
そば

☎ 0798・52・5655

耳鼻咽喉科 足達医院

兵庫医大の風土が教えてくれたこと



西宮市立こども未来センター診療所
小児科 太田 秀紀 (H14卒)

平成14年卒の太田と申します。平成30年春より西宮市立こども未来センター診療所長を拝命しております。今回ご縁あって緑西レターに投稿できますこと、大変うれしく思っています。「こども未来センターってなんですか?」と訝しく思う方もおられるかと思いますが施設紹介をさせていただきます。こども未来センターは旧わかば園(心身に障害をもつ子どものための診療・療育機関)と総合教育センター(不登校などの親子のための相談機関)が統合され平成27年オープンした新施設です。医療・教育・福祉が一体となって様々な障害や困難をもつ子どもをサポートします。こども未来センターには多くの役割がありますが、なかでも近年のトピックは「発達障害(神経発達症)」への早期発見・支援です。

実際、相談・受診ケースのほとんどが発達障害関連です。私は小児科医ですが、発達障害診療を専門にさせてもらっています。

さて、なぜ発達障害を専門とするようになったかという、自分でもよくわからない運命の導きとしかいいようがありません。元々は小児科の総合診療医を目指して兵庫医大病院小児科、次いで国立成育医療研究センター総合診療部でレジデント研修を受けていましたが、この頃から小児科医の間で「軽度

発達障害」「広汎性発達障害(現在の自閉スペクトラム症)」という言葉が話題になりはじめました。レジデント時代から私はなぜか「ユニークな子ども・親」を受け持つことが多く(今から思えば上司の策略だったような…)、気が付いた時には「空気が読めない親」や「ぶっとんだ言動の子ども」への対応を実地で学んでいました。また自分にはそういったケースと相性がいい生来気質もあったようです。後々そういった親子が発達障害だったと分かりました。ほとんどの医者はこのようなある意味面倒なケースには関わりたくないのが本音だと思いますが、私はあまり苦痛でなくどちらかといえば楽しんでいる部分すらありました。「まあ向いているなら、この道をもう少し探求するか。誰もやらないし。」という前向きではないですが淡々とした気持ちで働いているうちに、またまた気が付いた時には専門医だった、といった具合です。

思い起こせば大学時代、同級生や先輩方とお付き合いする中で、「いろんな人がいるなー。」と感嘆した思い出があります。兵庫医大は今わかりませんが、当時ユニークな人材の宝庫だったように思います。(注:その方たちが発達障害だと言っているわけではありません。)そして、そんなユニークな存在を大らかな心をもって受け入れる風土が大学内にあったことが素晴らしいことだと思います。結果、周知のとおり多くの卒業生が現在大活躍されています。人について決めつけをせず、多様性を尊重する精神は兵庫医大から学んだ大切な教訓で、現在の診療における礎となりました。こども未来センターは皆様との連携を重視しております。よろしくご指導ご鞭撻の程お願いいたします。

広報部報告

緑西レターは、ご寄稿の皆様、広告協賛の皆様、そしてご覧頂いているすべての皆様のおかげで第5号に到達いたしました。

到達を機に、秋号は大学創立記念日である11月22日発行、創設者である森村茂樹先生を思い出し、皆で記念日をお祝いする、春号は今年実行の大学入学式の日とし、皆で新入生の緑樹会仲間入りを祝う、とすることを決定いたしました。

今年も、緑西会では、6月は総会、11月には教育研究棟完成を記念した緑尼会との合同ゴルフコ

ンペを開催、両イベントへ野口光一学長にもご参加頂きました。

また、二年目となる大学第二学年次学生対象の診療所実習へ複数の医療機関が応需、現役学生とも出会いをもち、ALL兵医での融和といった新たなビジョンも見えて参りました。

ホームタウン・西宮の支部会として今後も益々皆さまと仲良くして参りたいと考えております。

今後ともよろしくお願い申し上げます!

保科幸次 (H3卒)、濱岡守 (H16卒)

兵庫医科大学同窓会緑樹会

緑西会会員数 145名

(H30.11.22現在)

緑西LETTER

発行日/平成30年11月22日 発行人/大江与喜子

代表世話人/吉岡 優

印刷所/株式会社小西印刷所